ひぐらしのなく頃に白　人隠し編

kai

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ひぐらしのなく頃に白　人隠し編

【Ｎコード】

Ｎ３８３３Ｚ

【作者名】

ｋａｉ

【あらすじ】

ある日、この雛見沢に２人の転校生が引っ越して来た。１人は明るく１人は暗い対称的な２人だった。しかし、ちょうどその頃、雛見沢に大きな出来事が・・・

新たな（前書き）

みなさん、おはようございます。こんにちは。こんばんは。どうもｋａｉです。新しい物語を作ってみました。暖かい目で見てやってください。

新たな

主人公

神寺白（かみじはく）

転校生の1人、明るい性格で辛い物が大好きな女の子。ちなみに彼女は、中学3年生。

鬼神黒（きじんくろ）

転校生の1人、暗い性格で苦いものが大好きな男の子。彼も中学3年生だ。

光があれば闇がある・・・陰があれば陽もある・・・人間も同じ・・・幸せになる者もいれば不幸になる者もいる・・・それが全ての法則。

白side

私は、神寺白（かみじはく）。千葉県からやって来た。両親は私が幼い時に交通事故で他界した。私は、おじいちゃんとおばあちゃんが雛見沢に住んでいるのでそこで引き取ってもらうことになった。そして今、着いたところだった。雛見沢に来て最初に言った言葉は、

「雛見沢は、空気がおいしいな～」

私は、そう言っておばあちゃんとおじいちゃんの家に向かった。行くまでにかなりの時間がかかった。

そして・・・ようやく・・・・着いた。長かった！！実に長かった！！もう・・・動けない・・・その時、おばあちゃんが出てきた。

「あら～白ちゃんいらっしゃい。疲れたでしょ？お風呂沸かしてあるから入ってきなさい」

「ありがとう、おばあちゃん」

私はお風呂場に行き汗でベトベトな服を脱ぎシャワーを浴びた。そして、パジャマに着替え居間に行った。そこには、おじいちゃんがいた。

「おじいちゃん」

「おお、白か！！」

おじいちゃんは、驚いたように言った

「久しぶりだね」

「そうだな～」

それから、色々と話が弾んだ。千葉のことや友達のことなど。そして、思い出した。確かここ最近私の友達がここに引っ越したと聞いた。

名前は・・・えーと。あっそうだ！！確か本性クロト（ほんしょうくろと）君が来てたんだ！！

本性クロト（ほんしょうくろと）君とは、昔、私が東京にいた頃、

ご近所にいた内気な男の子だった。よく遊んだっけ・・・元気にしてるかな～　その時、おばあちゃんがやって来た。

「夕飯ができましたよ～」

「やったーお腹空いてたんだ！！」

「おお、飯か」

夕飯を食べた後、私は明日の学校の準備をした。そして、すぐに寝た。朝はさわやかに起きた。そこにおばあちゃんが現れてこう言った。

「白ちゃんおはよ～朝ごはん準備してあるからね」

「うん、ありがとう」

私は、朝ご飯を食べ終え顔を洗い歯磨きをして制服に着替えおばあちゃんにこう言った。

「行ってきまーす！！」

新たな（後書き）

ちなみにこの物語は、「ひぐらしのなく頃に生」と「ひぐらしのなく頃に死」の続編です。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3833z/

ひぐらしのなく頃に白　人隠し編

2011年12月12日23時48分発行